

10: 47, f. 173. 5) Desikachary, T. V. (1959) Cyanophyta. 6) Hirose, H. (1962) On the genus *Nostoc* Vaucher of Japan. Acta Phytotax. Geobot. 20: 304, f. 2.

* * * *

Nostoc ellipsosporum の観察をした。

1) アキネートの形成される位置は様々であるが、トリコームの両端に異質細胞と栄養細胞を残して、その中央部に連る場合が多い。

2) アキネートと異質細胞は接続することもあるが、離れている場合が多い。

3) 接続するアキネートの数は最高82個のものが見られたが、多くは10~35個の範囲である。

4) アキネートの発芽状況。 A) アキネートは発芽に近づくにつれ容積を増大し、円筒形のものが次第にまるみを帯びてくる。そして膜が融解する頃には長径 25~30 μ , 短径 15~25 μ になる。 B) アキネートが発芽して多くは5細胞の頃、異質細胞が作られる。 C) 異質細胞ができて間もなく、即ち多くは6細胞の頃、膜がとけてトリコームは外に出る。 D) アキネートの膜の崩解は、始め自由側面の一ヶ所でおこり、中のトリコームは二つ折りの状態で、折れた所で切れながら、外へ出ることが多い。

○**Mitrephora Harai** について (大橋廣好) Hiroyoshi OHASHI: A note on a specimen referable to *Mitrephora Harai* Ohashi in the Central National Herbarium (CAL), Calcutta

1966 年 Flora of Eastern Himalaya (H. Hara) の中でパンレイシ科の新種を *Mitrephora Harai* として発表した。直径 4-5 cm の美しい花をつける低木であるが、このように目立つ植物が、シッキムのようなかなりよく調査された地域で未記録なことを不審に思っていた。1967 年、インドの Central National Herbarium を訪れる機会にめぐまれたので、本種について調べてみた結果、同腊葉館でこの科を専攻している Miss D. Das の助力もあって、標本を一枚だけ発見できた。それは Kari 1145 で, Sikkim, Mausong (Muusong), 3000 ft. (1909 年 4 月 24 日採) で得られたものであり, *Uvaria Hamiltonii* と同定されているものであった。これも holotype と同じく若い時期のものであるため、成葉や果実をつけていないので、原記載を補足できないのが残念であるがよい標本であったので写真を東大の標本室に入れておいた。

Mitrephora Harai Ohashi in Fl. East. Himal. 97, pl. 5 b, fig. 14 (1966)—“*Uvaria Hamiltonii*” in sched. (CAL-551287), non Hook. f. et Thoms.

(東京大学総合研究資料館植物)